

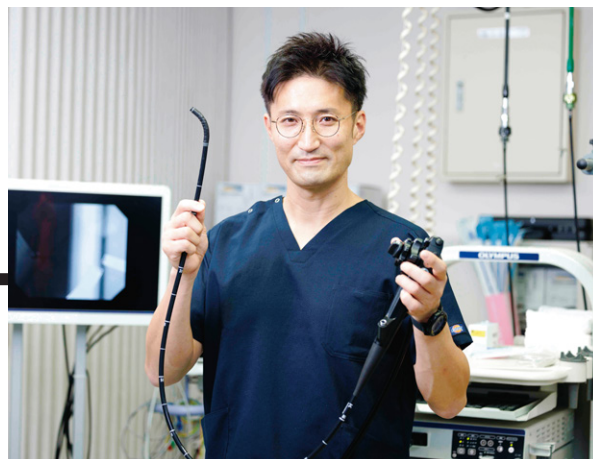


# はるあもりほい

●医療法人創和会広報誌はるあもりにい / 発行 医療法人創和会 理事長 重井文博  
令和5年12月1日発行

## 「内視鏡センター」リニューアル

研究所附属病院 診療部門 診療部長 山本 直樹



この度、患者さんに少しでも楽に、少しでも快適に、落ち着いて検査を受けていただくことができるように、多職種で意見を持ち寄り話し合いを重ねて、今までの問題点を改善し、新たな「内視鏡センター」に生まれ変わりました。

「新しく改良したところ」と「今までもこれからも大切にしていきたいこと」を含めて、新しい内視鏡センターの紹介をさせていただきます。

### より身近に…

今までは、外来から奥まったところにあつたため、外来に来られている患者さんの目に触れにくく、分かりにくかったと思いますし、奥まったところに入っていきような環境であることで、患者さんが余計に緊張してしまうような環境であったのではないかと思います。

そこで、今回は外来から近いエレベーターホールに面した場所に移転しました。より明るく、入りやすい雰囲気となっており、患者さんにできるだけ緊張感を与えてしまわないように配慮しています。

### プライバシーに配慮して、少しでも快適に

今までは、胃カメラの際の喉の麻酔などの前処置を検査室の入り口の空間でさせていただいてい

ましたので、検査室の様子が伝わってしまい、患者さんにより緊張感を与えてしまっていたのではないかと思います。新たに前処置をするための部屋を準備し、検査前の患者さんだけのスペースで、少しでもリラックスをして準備をしていただけるようにしています。

また、大腸カメラの際の下剤を飲んでいただくための専用のスペースやトイレがありませんでしたが、検査を受けていただく患者さん一人ひとりに、専用のトイレを併設したウェイトングルームをご用意しておりますので、プライバシーが守られた空間の中で、過ごしていただけるようになりました。

さらに、今までは、検査後にゆっくりと落ち着いて休んでいただくことが難しい環境でありましたが、リニューアルにともない内視鏡室とリカバリ室を分けていますので、静かな環境でゆっくりと落ち着いてお休みいただくことができます。看護師が適宜訪室しますが、ベッドごとにナースコールを設置し、モニターでも確認できるようになっており、より安全面にも配慮しています。

### より簡便に受けていただくために…

今後も以前と同様に、かかりつけの先生の診察室から研究所附属病院所定の用紙を地域連携室に

FAX していただくだけで、約 10 分で予約日と時間を確定させて、お返事をさせていただきます。わざわざ研究所附属病院への紹介状を持って外来受診をして、胃カメラや大腸カメラの予約を取っていただく必要はありません。研究所附属病院の内視鏡センターをかかりつけの先生のところに併設された内視鏡センターの様に思っただけなら嬉しく思います。

この度、内視鏡センターを新しくするにあたり、多職種のスタッフで何度も話し合いを重ねていく中で、患者さんに少しでも安心して検査を受けていただけて、笑顔で検査室から帰っていただけ

るように、そしてまたここで受けてもいいかなと想像していただけると、と患者さんのことを想いながら徹底的に考えました。そんなスタッフみんなの気持ちが詰まった内視鏡センターです。

私たちは皆さんの胃や大腸と一緒に守っていきたく、そんな気持ちで診療に従事しています。

そのためにも、そして地域医療機関の先生方にも信頼していただける内視鏡検査をしていくためにも、よりよく改良された内視鏡センターで働く私たち自身もこれからより精進し、お互いに高め合いながら、患者さんによりよい検査を提供できるように、スタッフ一丸となって取り組んでまいります。引き続きよろしくお願いたします。



▲広く、明るく、清潔な内視鏡室



▲ゆっくりと落ち着いてお休みいただけるリカバリー室



▲プライバシーの確保されたウェイトングルーム



▲開放的なスペースでリラックスしていただける待合

## 10月1日、医局リニューアルが完了しました

しげい病院 医療支援部 係長 吉田 和明

2023年1月頃より医局改装の検討が開始されました。改装にあたって有元院長からは「医師同士が話や相談をしやすい環境であること」と指示がありました。そこで“単純にこれまでの医局ロビーに机やパソコンを設置するような作りではダメだ”と改装案を提出しました。

検討当初は医局と医局ロビーの間の壁を撤去して1部屋にしようとしたのですが、残念ながら法律の規制により、廊下を挟んで2部屋の医局になることになりました。そこで、開放感や一体感ができるようにガラスの自動ドアとガラスの壁に決めました。検討開始から2か月経過した3月に改修工事の図面が決定しました。

内装変更を検討した際に、ある医師が小さなシンクでお弁当箱を洗いにくそうしていたのを有元院長が覚えていて、今までよりシンクの大きい流し台を選んだエピソードが印象的でした。

8月19日(土)から土日を中心に改修工事ス

タート。工事にあたっては、騒音や入口・廊下が極端に狭くなるなど、出勤の先生方には大変ご迷惑をおかけいたしました。大きなトラブルもなく予定通り行うことができました。ご協力ありがとうございました。

工事担当者としては、先生方に「改修工事をしてよかった」と思ってもらえたらと願うばかりです。



▲開放的で一体感のある空間に！

## 役職者の交流会を4年ぶりに 現地開催しました

創和会本部 人事部 副部長 秋山 陽子

10月31日(火)役職者の交流会が開催されました。61名に参加していただき、2019年以来4年ぶりにオンラインではなく、直接会って話すことができました。

今回のテーマは、“スペシャリストコース”です。同職種、全部で12グループに分かれ、研究所附属病院の各会場で話し合いが行われました。お久しぶりの方も、初めましての方もおられたと思いますが、同職種故に盛り上がった交流になったのではないのでしょうか。

今回の提出していただいた報告書をもとに検討を重ね、スペシャリストコースの選択肢拡大や人材育成に繋がるようにまとめていかねばと思っております。



▲交流会の様子

## 2024年度の医療安全標語が決まりました

しげい病院 リスクマネジメント部会 芳本 徹 (創和会本部 係長)

2024年度のしげい病院での医療安全標語を決める時期が今年もやってきました。

合計60題の労作が寄せられた中で、リスクマネジメント部会の委員が13題を投票で選びました。その中から、栄えある院長賞に選ばれたのは、何と今年も、リハビリテーション部です。標語は、「再確認 しないで後悔 する安心」です。

ちなみに、厚労省の今年の医療安全推進週間11月19日～25日のスローガンは、「わかるまで聞こう話そう伝えよう」です。

来年度は、各職員の医療安全に対する意識がさらに向上し、インシデント・アクシデント件数が2023年よりも減ることを願っています。

### 2024年度医療安全標語投票結果

院長賞

リハビリテーション部

再確認 しないで後悔 する安心

本館3F	不安だな 自己解決せずに 相談を
放射線部	共有は リスク回避の第一歩
地域連携部	報告は 手を止め 顔みて よく聴いて
医療支援部	感じた違和感大切に そのままにせず報連相
本館4階南	安全は 笑顔と対話と チーム力
IT推進室	同じ事 言い方一つで 違う事
検査健診部	上げていこう 医療の質とモチベーション
栄養管理部	間違いを 素直に言える 環境を
臨床工学部	確認10秒 ミス一生 慌てたときこそ急がば回れ
通所リハビリ	皆で呼称し安全確認でワンチーム!!
南館3F	立ち止まり 多忙な時こそ 一呼吸
本部	確認は 違う視点で もう一度

## 第2回肝・腎かなめの健康講座を開催いたしました！

岡山大学学術研究院医歯薬学域 肝・腎疾患連携推進講座 特任教授 高木 章乃夫

岡山大学に肝・腎疾患連携推進講座を開設するにあたり目標としたことの一つは、メタボリックシンドローム関連臓器障害の代表である慢性腎臓病と慢性肝疾患の予防・受検・受診・受療の啓発活動です。生憎のコロナ禍で現地での活動がなかなか開催できませんでしたが、令和5年3月5日の日曜日ようやく、「はあもにい倉敷」で「肝・腎かなめの健康講座」をしげい病院と岡山大学病院肝炎相談センターとの共同で開催することができました。

第2回目の講座開催にあたり、本講座は広く備中地域での啓発を目標としていることから、しげい病院の近隣を離れて笹沖の「くらしき健康福祉プラザ」を選びました。前회가日曜日だったので、今回は平日開催として異なる参加者層を狙いました。令和5年10月19日の木曜日午後2時から3時半で講演を行い、その後岡山県肝炎相談センター業務である肝炎ウイルス採血を行いました。

開催前には日本腎臓学会・日本腎臓病協会監修のCKD啓発動画を流し、医療支援部河原課長の司会で、肝臓内科医師（高木）・腎臓内科医師（しげい病院有元院長）・作業療法士（しげい病院リハビリテーション部西濱室長）・管理栄養士（しげい病院栄養管理部近藤副室長）・岡山県肝炎相談センター（岡山大学病院新医療研究開発センター難波助教）の講演で、68名の方にお集まりいただきました。しげい病院看護部の吉本主任にも手伝っていただき肝炎ウイルス無料採血も44人に行いました。

第1回の際は岡山大学のスタッフが肝炎Tシャツを着用して、しげい病院スタッフの皆さんは私服あるいは白衣での参加でしたが、今回は有元院長以下しげい病院スタッフも出来立ての腎臓Tシャツを着用され、肝・腎のタグとということが一見し

て分かり、見た目にも統一感がありました。反省点としてはスライドの切り替えに手間取って時間が押したことがあり、次回は肝炎動画以外のスライドをあらかじめつないでおくなど対策していこうと思います。

これからも回を重ねるごとにブラッシュアップ出来ると思います。少しずつ活動地域を広げて備中圏域全体に肝腎疾患の予防・受検・受診・受療の重要性を啓発し、初診でいきなり末期肝腎疾患が発見されるような事態をなくしたいと思います。

これから第3回の計画を立てていきたいと思えます。参加スタッフ及び所属部署の皆さまにはご負担をおかけしますが、何卒引き続きのご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



▲講座の様子



▲肝炎ウイルス無料採血

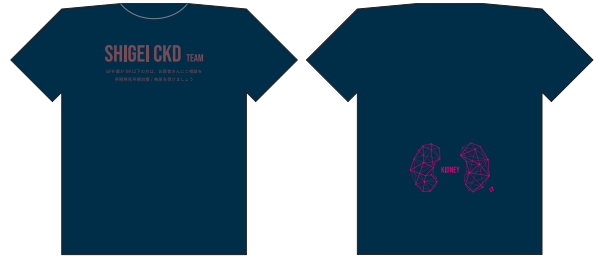


▲腎臓Tシャツを着用して集合写真

2022年4月から、岡山大学と創和会は肝・腎疾患連携推進講座を共同開設しています。

# しげい病院 CKD チーム Tシャツ完成しました!!

しげい病院 看護部 主任 吉本 裕美



▲チーム全員の思いを込めたTシャツ!

きっかけは第1回目の「肝・腎かなめの健康講座」でした。岡大チームが肝臓をプリントした爽やかな水色の「肝炎Tシャツ」を着用して、チームとしての一体感をアピールしていましたが、それに感心した院長の発案で、しげいCKDチームでもお揃いのTシャツを作ろうということになりました。

CKD啓発活動の一環として、女優・檀れいさんを起用した「GFR値が59以下の方は、お医者さんにご相談を」というメッセージが日本腎臓病協会から発信されています。これに加えて、「早期発見早期治療」「検尿を受けましょう」の3つのメッセージをプリントしようとチームで話し合いました。あとは腎臓をどう表現するかです。患者さんから「腎臓はひとつ?」「前にあるの?」などと聞かれることが多いので、講演しながら「ここですよ」と見せて良くわかるように、背中に腎臓のイラストを入れたいと思いました。

チーム全員の思いを込めたアイデアを実現すべく、院内デザイン担当の甲佐さんをお願いしました。するとあっという間に、文字の大きさや配置やバランス、色合いや腎臓のデザイン等多数の案を考えてくださいました。悩みながらも候補を絞り、ネイビー生地に表にはピンクの文字で3つのメッセージをプリントし、表とは微妙に色合いが異なるピンクで背中に腎臓を表現したTシャツが完成しました。

10月19日の健康講座当日はしげいチーム5名がTシャツを着用して参加しました。「腎臓のデザインが素敵」「推してる文章がすごい」と評判でした。

甲佐さんには、似顔絵イラストを用いた医師紹介付きの腎臓内科外来新リーフレットも作成していただ

き、健康講座で配布し好評でした。従来の腎臓内科パンフレットと共に広報活動に活用したいと思えます。

来年5月頃には3回目の「肝・腎かなめの健康講座」を開催する予定です。このCKDチームTシャツを着て、肝・腎疾患連携の重要性を啓発する活動に今後も積極的に参加していきたいと思えます。



▲腎臓内科外来新リーフレット



▲CKDチーム

## 幸町記念病院で 避難訓練を行いました

幸町記念病院 技術部 主任 中山 賢治



▲各階責任者が隊長（医師）へ報告

透析中に火災が発生した場合を想定した避難訓練を11月16日（木）に行い、職員35名が参加しました。訓練の内容は、火災発生時の通報、初期消火、避難誘導となり、実際に火災報知器を作動させ、本番に近い形で行いました。

院内の火災報知器が鳴ると各階の検知盤前に集合し、どこが火元かを確認します。各階の責任者が中心となり避難経路の決定やアクションカードを配布し各役割担当を決め、指示を出します。各スタッフは与えられたアクションカードに沿って



▲消火栓を使用した訓練

避難誘導を行います。誘導する患者は独歩・護送・担送患者に区分し、職員が患者役となり誘導訓練をしました。また、病棟ではサーボ装着患

者を想定し、酸素アウトレットからボンベへの切り替えも行いました。各階責任者が避難場所で待機している隊長（医師）に避難状況を報告し、全員の避難を確認し訓練を終了としました。

その後、消火栓訓練も行いました。消火栓の使用手順を説明し、実際に長いホースを取り出し使用してみると、しっかりノズルを持っておかないと水圧の反動でうまく火元に放水できないことを体験しました。

避難訓練に初めて参加するスタッフもいるため、事前に配役を決め何度か練習を行ってから本番に挑んだのですが、消防士役スタッフのアドリブに翻弄される場面もありました。

いつ起こるかわからない災害が発生したとき、被害を最小限にするため各々が行動できるよう訓練することが大切だと考えます。今回の避難訓練での意見を取り入れ見直し、様々な想定災害に備えたいと思っています。

## 倉敷しがい居宅介護支援事業所の 制服が新しくなりました！

倉敷しがい居宅介護支援事業所 主任 平野 雅子

このたび、10数年ぶりに制服をリニューアルしました。

「どこがかわったの？」と思われる方がほとんどだと思いますが、密かにシャツが替わりました。

新しい制服を決めるにあたり、皆で張りきって水色、ベージュ、薄紫、紺のギンガムチェックなどいろいろと試着し悩んだ結果、一周まわって、色も形もほぼ変わらないものになりました。

ちなみに近隣のケアマネジャーの制服は紺・黒・水色などが多く、ピンクのシャツは珍しく研修会などで目立ちます。ピンクのシャツは男性（女性も？）は心理的に少し抵抗があるかもしれませんが、当居宅の男性ケアマネジャーは爽やかに着こ

なしています。

ピンクと白の細いストライプの入った新しいシャツは着ると顔元が明るくなり、素材もストレッチが入り以前よりずっと動きやすくなりました。利用者のご家族からは、「なんだか明るくなった？」との声もいただきました。

病院の制服がどんどんカラフルに機能的になり、看護師さんの制服も長い間の主流であった白やピンクから鮮やかに変化している昨今ですが、ピンクのもつ明るく優しい雰囲気そのままに、変わらず利用者さんの生活を支えることができる事業所でありたいと思います。

着心地  
抜群です！



# おかやまマラソンに参加して

研究所附属病院 リハビリテーション部 大西 秀典

今回、初めてとなるおかやまマラソン 2023 に出場しました。コロナ禍後の本格的な開催となり、約 1.6 万人のランナーの 1 人として参加しました。

私は短距離専門で中高 6 年間陸上部でした。走ることはそれなりに得意分野。三十路過ぎの体を気遣い、健康増進のためにジョギングも嗜んでおりました。そうした状態で望んだ今大会、病院マラソン部の T シャツを背に颯爽と走りだしたのです。

しかし、現実是非情…！ 22 キロを過ぎたあたりで右大腿がつり、それでも走っていたら今度は左大腿がつってしまったのです。そこからは乳酸地獄で足が動かず、体が言うことを聞いてくれません。歩いてでも前に進みますが、ずるずると



▲生放送で研究所附属病院をアピールできました！

ペースダウン…。

結局 31 キロ関門目前で無念のタイムアップ。「6 時間ずっと走り続ける」ための準備不足を痛感しました。歯がゆい…！！

ただ、関門のところで TV インタビューを受けたことと、生放送で（端っこに）映ったことは少し嬉しい出来事でした。研究所附属病院の名前も映ったのでラッキー☆

次回はゴールしたところを TV 中継されたい、そうリベンジを誓った日になりました。

# 第23回「自然史博物館まつり」に 草原保全についてのコーナーを出展しました

重井薬用植物園 園長 片岡 博行

11 月 3・4・5 日の 3 連休、倉敷市中央の倉敷市立自然史博物館にて開催された、第 23 回「自然史博物館まつり」に、植物園も出張コーナーを出展しました。

今回は、真庭市蒜山地域での草原保全活動を当園と共に行っている「蒜山自然再生協議会」とのコラボ企画「蒜山の草原においでよ！山焼き草原のパネル展示&山焼き道具で“消火”体験」と題し、草原保全活動についてのパネル展示をメインに、植物園産の「カワラケツメイ」（マメ科の 1 年草）

のお茶の試飲、お茶葉のプレゼント、園内のアベマキのどんぐりでどんぐりゴマづくり体験などを行ったほか、春に草原を維持するために枯草を燃やす「山焼き」の際に使用する「ジェットシューター」という消火道具の体験を午前、午後の 2 回実施しました。

いずれも子供たちに人気で、カワラケツメイ茶は 3 日連続で飲みに来た子もいたほか、消火道具の体験は親子や兄弟姉妹で協力して“消火”するなど、楽しんで体験してもらえました。



▲パネル展示の様子



▲カワラケツメイの野草茶。さわやかな草原風味!?

## 催し物案内

重井薬用植物園

### 植物園を楽しむ会

「冬ざれの森の紅を楽しむ」

日時：12月3日（日）

10：00～12：00

会場：重井薬用植物園

## 編集後記

●睡眠計測アプリ「ポケモンスリープ」を始めました。寝た時間を測って睡眠中の状態をうとうと、やすやすや、ぐっすりの3段階で教えてくれます。寝言も録音されます。きっかけは夜中子供にポコポコ蹴られて目が覚めるので本当に眠れているのか確認するためでしたが、存外よいものでした。計測結果は子供が暴れると大人は眠れないという事実の再確認となりました。ポケモンスリープには早く寝るようにする仕掛けがあって、最終的に睡眠時間は増えました。計測開始するとスマホを触れなくなることが良いのだと思います。健康になれる気がします。何年もゲームはしていませんでしたが、ポケモンを育てる面白さもあり、しばらく続けようと思います。（MK）

●待ちに待った岡山空港からの台湾・ソウル便が再開しました。予約を取ろうとホームページにアクセスしましたが、良い日取りはほぼソールドアウト。また予定を組み直そうと考えていたところ、夫は希望の日程でソウル便がとれたようで年末ソウルに行くそうです。日々YouTubeでソウル情報を楽しそうに見ている夫を見て、うらやましい気持ちでいっぱいです。そんな時、永年勤続旅行の再開のお知らせをみて、“行きたい!!”と思ったのですが、現実的には今の円の状況では厳しいなあと思い、日々妄想旅行で計画を楽しんでいます。（LY）

## 岡山県病院協会 優良職員表彰おめでとうございます

今年の岡山県病院協会 優良職員表彰は、  
創和会からは以下の7名の方が受賞されました。



生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に

WEB版はこちら。  
バックナンバーも  
ご覧ください。



### しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30  
TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

### 岡山しげい訪問看護ステーション

岡山しげい在宅介護支援事業所  
〒701-0202 岡山市南区山田2117  
TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

### 重井医学研究所附属病院

〒707-0202 岡山市南区山田2117  
TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

### 倉敷しげい訪問看護ステーション

倉敷しげい在宅介護支援事業所  
〒710-0051 倉敷市幸町2-30  
TEL086(422)8111 FAX086(421)1991

### 重井薬用植物園

〒710-0007 倉敷市浅原20  
TEL086(423)2396

### 重井医学研究所

〒707-0202 岡山市南区山田2117  
TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

### 倉敷昆虫館

〒710-0051 倉敷市幸町2-30  
TEL086(422)8207